

# 若いなかま

若いなかま No.188

2013(平成25)年 11月15日 発行

発行 (公社)福岡県青少年育成県民会議

〒812-0046 福岡市博多区吉塚本町13番50号  
吉塚合同庁舎6F

TEL(092)643-6001 FAX(092)643-6003

E-mail : net.y.d@isis.ocn.ne.jp

ホームページ : http://www.fayd.jp/

## 小・中・高・大学生等をつなぎ、育てる 野外学習!

試そう!「経験」つけよう!「自信」みつめよう!「未来」



**2013/8/7(水)~8/11(日)**  
**実施場所：国立阿蘇青少年交流の家**

### 目次

小・中・高校生などをつなぎ育てる野外活動 … 1・2	福岡県青少年囲碁大会 …… 6
家庭の日・オアシス運動 …… 3	地域の話題 …… 7
少年の主張 福岡県大会 …… 4・5	青少年育成“考”、その他 …… 8

### (公益社団法人)福岡県青少年育成県民会議は、

青少年問題の重要性にかんがみ、広く県民の総意を結集し、国や県の施策に呼応して、総合的な運動を展開し、将来を担う青少年の健全な育成を図ることを目的に昭和41年12月13日に結成されました。

(昭和45年 社団法人。平成25年4月1日公益社団法人に移行となる。)

# 「野外学習」2013

阿蘇の大自然の中で忍耐力・自立性・創造性等を養う

「小中高生等をつなぎ、育てる野外学習」2013が、8月7日(水)～11日(日)までの5日間、国立阿蘇青少年交流の家で実施された。

「経験」「自信」「未来」をテーマに行われたこのキャンプ、泣き、笑い、感動など、数多くの体験を通して、子ども達同志、それぞれの個性の違いを認め合いながら、力を合わせて助け合うという思いやりの心が育まれた5日間だったのではないかと。子ども達が挑んだ5日間の感動の記録をここに報告する。

## 1日目 8月7日(水)

福岡東公園で出発式があり、スタッフの紹介や当県民会議右田会長、福岡県伊東青少年課長の挨拶の後、バス2台に乗り込み目的地の阿蘇へと向かった。昼過ぎには目的地のキャンプ場に到着、昼食後、早速入所式等があり、テント張りをした。

夕食は、野外炊飯、火起こしやカレーライス作り等に挑み、悪戦苦闘しながら作り上げ、みんなで楽しく食べた。そして、夜はナイトハイイクに挑み、真っ暗な中、近くの丘の上まで歩き、その場に寝転んで満天の星空を眺めた。感動！

## 2日目 8月8日(木)

この日のメインは、沢登り体験。出発前に沢登りのインストラクターから注意事項の説明を受け、目的地の産山村へと向かった。その場所に着くと、子ども達は待ちきれないように、水着に着替え、救命胴衣やヘルメットを身に付け、インストラクターの先導で川の中へ入っていった。水掛けをしたり転んだりしながら上流へと進み、高さ5メートルの滝下へと辿り着いた。子ども達は滝上に登り、滝壺に飛び込んだりして遊び、楽しんだ。

また、池山水源の見学では、阿蘇のわ

## 3日目 8月9日(金)

この日のメインは、山登り体験。今回登る山は阿蘇中岳。仙酔峡から登り始め、途中随時休憩をはさみながらの山登りとなった。今年は特に暑かったので、子ども達の体調維持には特に気を配り、最終的に一人の棄権者も出さずに子ども達全員が頂上に立つことができた。バンザイ！



## 4日目 8月10日(土)

この日の主なプログラムはチャレンジゲームと別れの集い。チャレンジゲームでは、キャンプ場内に準備された九つのゲームを午前にも五つ、午後にも四つのゲームを班毎にチャレンジした。ゲームの

チャレンジキーワードは「協力、信頼、絆、冒険」。子ども達は、班でキーワードを具体化し、ゲームクリアを目標にチャレンジした。

本館に移動して、夜19時30分から、体育館で別れの集いを行った。初めて出会ったごちなさから、友達が出来た嬉しさ、その友達と4泊5日、苦楽を共にし、翌日の別れを惜しんでのお別れ会だった。出し物は、どの班も時間が無いか工夫され、楽しいものだった。

## 5日目 8月11日(日)

「野外学習」最終日、部屋の掃除・整理の点検も終わり、記念品と作文の作成を行った。記念品は、「芋虫クリップ」や「簡単ペットボトルホルダー」等、五つの記念品作成ブースを班毎に移動して作った。作った記念品は、世界唯一のもので、家族や自分のおみやげにしていた。

今回の野外学習でも、子ども達全員が大きな怪我や病気もなく無事に帰りがけことができました。これも一重にスタッフやリーダーを始め、参加者全員の協力あってこそその結果だと思っています。

子ども達には、この貴重な体験を今後の人生に是非生かしてほしいと願っています。

今後のご活躍をお祈りします。

# 「家庭の日」・「オアシス運動」 - 入賞作品の紹介 -

家庭は健全でしっかりした考え方やふるまいを身につける場  
人の心に届くあいさつを実行することは社会生活の基本

県民会議では「家庭の日」、「オアシス運動」（あいさつ運動）について理解を  
深め、活動を広げるためにポスター及び作文を募集しました。今回は中学校と  
特別支援学校の皆さんからの応募が増え、小学校低学年を合わせ、全体的にも  
昨年度を上回る1,011名の応募がありました。その中から最優秀作品2点を  
紹介いたします。

最優秀作品は県民会議のホーム  
ページに掲載し、入賞作品は、26年  
2月に県庁ロビーで展示を予定して  
います。

## ◇ 作文の部 最優秀賞

### 私の家の「家庭の日」

遠賀南中学校 1年 西依 由里香

私の家は三人家族で、両親が共働きで  
す。もの心ついた時から、朝は、母が七時  
には家を出て、夜は、父が寝た後に帰って  
きます。

私の家の朝は早く、六時半には全員揃っ  
て朝ご飯を食べ始め、十五分程で急いで食  
べ終わらせます。また、母が早く家を出る  
ことで、朝ご飯の後片づけの皿洗いや床ふ  
き掃除・ごみ出しなどの全てを、父があわ  
ただしく済ませた後、仕事に出かけます。  
私も学校から帰ってくると、洗濯物を取り  
こんでたたんだり風呂をわかしています。

このように、私の家では家族で協力し、自  
分達ができることを仕事分担して、それぞ  
れが楽になるようにしています。でも、正  
直いうと私は、進んでやりたいとは思って  
いません。朝も、もう少しゆつくり寝たい  
し、部活や宿題もしなくてはいけないう  
少しは息ぬきしたりしたいと思っていま  
す。でも、父も母も家族のためにがんばっ  
ているんだから、私も協力しなくてはなら  
ないと思い、手伝いをしています。

私の家族が全員そろう日も少なく、日曜

日しか家族全員が集まりません。昔の思い出  
として、天気の良い休日となると、家族と  
遊びに行くことが、一番の楽しみでした。  
特に心残っているのは宗像にある、ふれあ  
いの森公園です。この辺では見かけない、  
珍しいカゴのようなブランコがお気に入り  
だったので、毎週のように連れて行って  
きました。乗っているブランコのカゴを父  
と母が押してくれたことや、母の作ったお  
弁当を持って行って、ブルーシートをし  
て食べたことや、父と遊具まで走って競争  
したりしたことが楽しかったです。

また、小さいころから、月に一回祖母も  
連れて、ご先祖様に手を合わせて、自分の  
心の中のことを話します。その後、祖母も  
一緒に、おそめの朝食を楽しくおしゃべり  
しながら食べることも私はとても好きです。  
今は、いろんな店に行ってみて回ったり、  
夜にはテレビを見ながら、家族で話すこと  
が増えました。しかし、家族で過ごす貴重  
な日曜日でも、私が中学生になって部活や  
宿題で外へ出かけたなくなったり、近場  
の買い物には行きたくなくなったりして、  
家族と共に行動することが少なくなりました。

父や母は忙しいにも関わらず、学校や習  
い事の私の行事を見に来くれます。最近  
は、「この日はこなくていいからね」と、  
行事を見に来るのがはずかしいことを言い

## ◇ ポスターの部 最優秀賞

須恵東中学校 2年  
荒 巻 菜 月



訳にして、  
心のないこ  
とを言っ  
てしまいま  
す。休日を  
とつてまで  
して来てく  
れるのを、  
うれしく、  
ありがたい  
なと思っ  
ています。

中学生になって、部活も勉強も忙しくな  
って、自分の事でよゆうが無くなり、あま  
り家族と話せていません。話かけられて  
も、生返事をしてしまうことが多くなり、  
「宿題中やけ、ちよつと待つて。」と、つい  
怒りがちに言ってしまうことも増えました。  
特に父は、朝の時間までもバタバタと家事  
をしているので話す時間もありません。な  
ので、しっかりと話を聞いて、返事をして、  
もつと会話を増やしたいです。

家族はいつも、仕事で大変そうです。自  
分が家族のために協力できるのは少ないで  
すが、出来るだけ手伝えることがあれば、  
自分のためにも、進んでがんばりたいと改  
めて思いました。

最近では、家族と出かけたたり、特別に何  
かをするのが「家庭の日」ではないと思  
うようになりました。共通の話題をみんな  
で話したり、お花を植えたり、料理をする  
ことも、「家庭の日」だと思います。なの  
で、次の家族全員が集まる日には、買い物  
などへ出かけるのもいいですが、母が料理  
が得意なので、チャレンジしてみたい料理  
を教してもらいながら料理を作って、家族  
三人で楽しく食卓を囲みたいです。

**FFG** ふくおかフィナンシャルグループ

あなたのいちばんに。



**福岡銀行**

# 少年の主張福岡県大会2013 in 柳川

## いま、中学生が訴えたいこと 平成25年8月24日

今年で35回目を迎える本大会は猛暑から一変してゲリラ豪雨と落雷が心配される悪天候となったが、「水の郷」の会場には多くの市民、保護者、関係者で熱気にあふれた。15人の発表者はそれぞれの思いを個性豊かに表現。またアトラクションとして三橋町柳川沖の石太鼓の力強い演奏とハンドベル「ゆりの会」の美しい音色は大会に花を添えた。その後、蒲原審査委員長から審査結果の発表と講評が行われた。知事賞に選ばれた上田絢女さんの作品全文と3賞を一部紹介する。

今年の少年の主張大会は北原白秋の生誕の地で知られる水郷柳川の保健福祉センター「水の郷」で開催された。県下の中学生から10、405点の応募があり、審査委員会の第1次・第2次審査を経た15点が最終審査に残り発表した。福岡県知事(代理)、県教育委員会(代理)、柳川市教育委員会教育委員長の前賓を迎えて盛大に行われた。

### 県知事賞

### グローバル化と付き合う



福岡雙葉中学校 3年  
上田 絢 女

「ハロー」友達との会話は決まってこのフレーズで始まり、趣味や好きな芸能人などの話題へと展開します。私は昨年の夏休みに、シンガポールで語学研修に参加しました。シンガポールに行く前は「日本人の会話とは、流れや話題も違うのかな」と心配していましたが、同世代の子たちとのふれあいの中ではそのような心配は無用でむしろ国境を感じることはほとんどありませんでした。しかし、一度だけ、はつきりとした国境を感じたことがあります。その時、私はここ数年で日本が「グローバル化」を意識し始めた理由が理解できたような気がしました。

研修も残すところ二日となったある日、いつものように友達と会話を交わしている

と突然「韓国語はできるの?」と、聞かれました。国際語である英語さえ出来れば良いと思っていた私は、「もちろんできないよ」と答えると、「なぜ、隣の国の言語なのに、話せないの?」と、驚かれました。その時、私は面積ではない日本の「狭さ」というものを感じました。確かに日本は、シンガポールと比べて島国なので、生の外国語に触れる機会が少ないです。だから、「隣の国の言語でも知らなくて当然だ」と、思う人が多いような気がします。

しかし、現在のようなボーダレス社会では、日本が世界全体から孤立するのでは。と、焦りを感じてしまいました。そう思っ

て周りを見てみると、シンガポールはまさに、日本が目指すべき「グローバル国家」でした。例えば、看板や標識に英語はもちろん中国語、マレー語、ヒンディー語など数多くの言語で記されていました。

では、シンガポールの人々は自分の文化や慣習など犠牲にしてまで相手と調和するかという、そういうわけではありませ

ん。私がシンガポールに滞在していた時期はイスラム教の友人が断食でした。私は最初、断食している人の前で食事をすることは、はばかるべき行為だと思ひ、どうすればよいのか戸惑いました。

しかし、周りには気にすることなく、普段に食事をしており、断食している本人も全く気にしていませんでした。これはお互いの宗教を理解し合いながらも「私は私」という自分らしさを貫いている証だとおもいます。そこで私はあることに気付きました。それは日本では美德とされる「遠慮」



です。「遠慮」が悪いわけではありませんが、時には自己主張のチャンスを失った

り、やる気はあるにもかかわらず「やる気があるのかな?」と、誤解を招くこともありえます。ですから「遠慮」と「本来の自己主張」この二つのバランスが大切だと思います。世界では、未だ領土や宗教などをめぐって、内戦や紛争が起こっている国がたくさんあります。私はその国の人々には是非、シンガポール国民の自己も、他人をも尊重する精神を学んでほしいです。そうすれば、世界はきっと平和になっていくと思います。つまり、本当の意味での「グローバル」というのは、単に英語ができるというわけではなく、物事を見極める視野を広くし、お互いが分かち合うことではないでしょうか。私は友達から「隣の国の言語を話せないこと」を指摘されて、初めて、自分の考え方がいかに小さいかを知りました。しかし、そのような人たちが視野を広げて周りを見渡すだけでも「グローバル化」に大きく貢献することができると思っています。ですから私は「なぜ、日本人なのに英語を勉強しなきゃいけないの?」と、嘆いている人に伝えたいです。

「今、やっていることは、近い将来、なくてはならない自分の尊い財産にできる」と。



各賞を受賞した15人の発表者



生かせ命

教育委員会賞

久留米市立  
屏水中学校3年  
谷川 理子

「私たち人はいろんな命をいただいで生かされている。しかし日本では年間3万人の自死者がいる。避けられる死であり、生かされている命を他の人のために生かさう！」と訴えた。

教育委員会賞・優秀賞第1席・審査委員会特別賞の作品の一部、優秀賞を受賞されたみなさんの作品名、お名前を紹介します。(表参照)



優秀賞第1席  
自分の成長と自立

田川市立  
中央中学校3年  
水上 菜緒

「和菓子店での職場体験で接客に大切なことは「感謝」の気持ち、「損得よりは善意を」「人と人が繋がることで社会は出来ている」ことを学ぶ。自分が社会に出て人と繋がりを持つには自分自身の成長と挑戦、努力する事が精神的な自立になる」と力強く発表した。



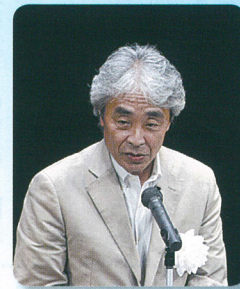
審査委員会特別賞  
ありがとうのソニー

飯塚市立  
飯塚第一中学校1年  
木村 観唯子

小学校の時に最愛の父親との死別、父親に「ありがとう」と言えなかった後悔を今は母親に感謝の気持ちを伝えたい。

そして将来自分に家族が出来たら「ありがとう」を伝えていきたいという天国のお父さんに誓う切なくも温かいメッセージであった。

蒲原由和審査委員長の講評



蒲原由和審査委員長

今年も多くのすぐれた作品が寄せられ、順位を決めるのが難しい作業でした。テーマが多岐に渡っていましたが今回の大きな特徴は「命」にかかわること、命の大切さが多かったことです。この大会は、課題が設定されていないだけに応募する方も審査する方も難しい選択です。原稿だけでは伝えられない部分が発表によってより説得力があり、心に迫るものがありました。言葉の力をより一層感じました。ネット社会、情報があふれる中で、安易な情報の羅列ではなく、借り物ものでない、自分の言葉として咀嚼し主張していたところに感銘を受けました。特に、知事賞に選ばれた上田絢女さんの「グローバル化と付き合い合う」は自らの体験を鋭い観察力で具体的に検証し、時事問題にも触れたしっかりした主張でした。最後に「今回の発表が1回限りの主張だけでなく、5年後10年後読み返すと、それを深化、修正、変化していることでしょう。これらの作品が皆さんの青春の履歴として生かされれば幸いです」と結ばれた。

優秀賞受賞者

(発表順)

氏名	題名	市町村名	学校名	学年
三木 稜也	祖父から学んだこと	芦屋町	芦屋中学校	2年
大谷 美羽	誰もが過ごしやすい社会にするために	飯塚市	飯塚第二中学校	1年
萬徳 雄太	命の大切さ	添田町	添田中学校	1年
長末 知佳	将来の夢～七年後の私～	飯塚市	穂波東中学校	2年
須堯亜由美	STOP！飲酒運転	飯塚市	二瀬中学校	3年
出田 修己	僕達の住む町	久留米市	田主丸中学校	3年
富永 陸斗	心から「ありがとう」	宇美町	宇美中学校	2年
後藤 星哉	西中改革3年目にかかる思い	飯塚市	穂波西中学校	3年
中村 祐貴	気持ちは自分を成長させる	柳川市	蒲池中学校	2年
山田 蒼汰	こんなおじいさん見たことない	芦屋町	芦屋中学校	1年
木村こころ	絶対に忘れない幸せな時	行橋市	今元中学校	3年

# 第十五回福岡県青少年囲碁大会

とき 平成25年8月18日(日)  
ところ 福岡市パピヨン24ガスホール

第15回福岡県青少年囲碁大会が、福岡市博多区パピヨン24ガスホールで300名(暮会所の指導者等も含む)が参加のもと開催された。



大会は子どもたちの熱気に包まれ、パチリと打ち進めるその表情は、真剣そのもの、夏休みの一日を子どもたちは盤上で熱戦を繰り広げた。

大会は「県知事杯争奪戦」「異年齢交流対戦」「ふれあい囲碁教室」「囲碁指導者研修会」「プロ棋士による多面打ち」「安田泰敏九段による講演会」と一日盛り

り沢山の熱気あふれた大会でした。

最初に主催者を代表して浦原由和大会実行委員長は「囲碁という頭脳ゲームは様々な効果があり、まず集中力が身につく、想像力を育み、発想が豊かになる。そして大事なことは礼儀作法が身につく

ことである。少しは勝ち負けにこだわらなかつつ、皆と交流を図り、囲碁友達を作って楽しい夏休みの思い出となることを願っています」とエールを送った。

○異年齢交流対戦は、年齢に関係なく対戦し、ふれあい交流の対局であり、今年11名が挑戦。大山碧櫻(福岡市香椎東小3年)さんは現在28級で参加、「学校ではしていないが、きっかけはお兄ちゃん(中3年)が強いので、自分も強くなりたくて始めた。これからも楽しんで続けたい」と対戦前に話してくれた。

成績優秀者には知事奨励賞があり、級位認定状が授与された。  
○ふれあい囲碁教室は20名の参加、囲碁を始めた子ども並びに保護者を対象に、まずスタッフの紹介から始まったが、大人達は将来の夢を語れず言葉が窮する光景は、教室全体が微笑んだ。

お母さんと3人で参加の近藤惺(福岡市照葉小1年)君、近藤里歩(同小5年)さんは、友達のお母さんから誘われてこの教室に参加したが、今日は沢山対戦したの



で、安田九段の色紙がプレゼントとされ、これを機会に来年は是非交流対戦に出場したいと目を輝かせていた。

○プロ棋士による多面打ちコーナーは、安田プロが多数の子ども達と同時に対局し、次々に打っていく囲碁であり、13名の豆棋士が参加、対局後安田九段から一人ずつ丁寧な指導を受け、満足顔だった。

○指導者研修会は、地域の指導者や保護者計35名が参加。安田九段が、自らの体験や生い立ちを交えて、囲碁を通じて出会った事等を語り、「子ども達はすごい可能性を秘めているので、囲碁を通じて何を伝えたいのか、ぶれずに子どもと同じ目線に立ち、人間の生き方を教えてほしい」と話をした。

○県知事杯争奪戦は、小学生12名、中学生15名、高校生16名の計43名が参加。午前十時からの長丁場の対戦時の表情は、真剣そのもの。石をとられたときや、逆に相手の石を取ったときなどに白い歯がのぞき、笑顔も見せていた。各部の成績優秀者は、来年3月「中国江蘇省青少年囲碁交流大会」に、福岡県代表の選考対象となる。

○安田九段による講話では、会場の全員に単純な図形を描いてもらい、それを皆で見せ合っつて、人それぞれで異なった図形であることに気づいてもらい「他人との意見の相違で自分の思っていることが相手にうまく伝わらずトラブルになる。人の考えや意見を受け入れて、もう一度



必ずなれます」と結ばれた。

囲碁は近年、思考力が養われるなどの効果が注目され、東京大、早稲田大、慶応大、青山学院大などが授業に採用。小学校の授業にも始まっているようだ。また、地域をあげての取り組みとして、小学校の放課後、教室やクラブ活動で囲碁を楽しむ例も多くなっている。

思考力や先を見通す力が備わるということだけでなく、地理、歴史や地域の取り組みなど、様々なことを学ぶことができる。

## 第15回福岡県青少年囲碁大会 知事杯争奪戦 対戦結果

小学生の部			中学生の部			高校生の部		
優勝	佐々木柊真	中間小6年	優勝	寺下龍太郎	筑陽学園中2年	優勝	塩田真一郎	ひびき高2年
準優勝	木村啓太郎	合岩小6年	準優勝	波多野寛太	城西中3年	準優勝	阿部健太郎	小倉高1年
3位	出口 凜	唐原小6年	3位	野口 裕太	御陵中2年	3位	隆 敏暢	福岡大大濠高1年

# 地域の話題

家庭、学校、地域、行政が責任を果たしながら  
社会全体で青少年を育む



大刀洗町ドリームまつり



嘉麻市中学生フェスタ

大刀洗町の大堰地区では昭和の初期に作られた「大堰お田植えおどり」を昭和51年から踊りを町の方に伝承しています。  
平成元年より大堰小学校5・6年生女子に地元の素晴らしい伝統芸能を伝えるために踊りの伝承に取り組んできました。当時の子供たちは、いやいやながら踊っていました。練習を毎年重ねるうちに先輩たちの踊りを見て、5年生になったら夏まつりで踊れる、6年生になったら衣装を着けてドリーム祭りでも踊ることの大変さと楽しさを体験しています。踊りをおして子供たちは、郷土の自然の美しさや収穫への祈りを学習することによって、地元大堰の貴重な伝統芸能を受け継いでいます。

## 「大堰お田植えおどり」

大堰お田植え踊り保存会

平成25年度「夏季少年のバス」研修  
福智町青少年育成町民会議  
平成25年8月17日(金)～19日(日)の2泊3日で宮崎県NPO法人五ヶ瀬の里キャンプ村で「夏季少年のバス」研修を行いました。  
小学4年～6年、中学1年～3年合わせて41名が参加し、地元では味わえない貴重な体験をしました。今年度も天気に恵まれ、カヌーやタイヤチュービングでの川遊びや竹を使った箸や箸入れの工作体験など、恵み豊かな自然の中で親睦を深めながら宮崎の大自然を満喫しました。  
献立決めから買い物、調理まで班の中で協力し合いながら、とても充実した時間を過ごすことができました。

平成25年度、嘉麻市青少年育成住民会議は、吹奏楽や合唱など、より多くの中学生が活躍できるように「中学生フェスタ」を学校と連携し実施しました。また、学校や地域の方々に研修会や意見交換会を実施し、嘉麻市全体で子どもたちを育てる気運を高めています。  
住民会議として、特に重要視しているのが、学校や家庭との連携です。子どもたちを健やかに育むためには、学校、地域、家庭が意識を共有し、共に取り組んでいくことが必要であると思います。  
26年度も、意見を交わし、共に考え、安心して子どもたちが成長できるように取り組んでまいります。

## 「中学生フェスタ」

嘉麻市青少年育成住民会議



いつもそこに、いつでもそばに。



ココロがある。コタエがある。  
西日本シティ銀行

事務局だより

主な行事(25年7月16日～11月17日)

- 7月 17日(水)青連協常任委員会
8月 17日(金)少年の主張第1次審査
21日(日)福岡県青少年育成アドバイザー
23日(火)第5回広報部会
26日(金)少年の主張第2次審査
7日(水)11日(日)「小・中・高校生等を
つなぎ、育てる野外学習」
18日(日)福岡県青少年囲碁大会
24日(土)少年の主張福岡県大会
3日(火)ジュニアアリーナ実行委員会
(以降、10/1、11/19)
10月 7日(月)家庭部会
10日(木)マラソン大会事務局会議
(以降、11/6)
11日(金)家庭の日・オアシス運動ポスター2次審査
18日(金)家庭の日・オアシス運動作文2次審査
11日(日)総務部会
※163日(水)「若者育成支援のための
地域連携推進事業九州ブロック研修会
26日(金)九州地区県民会議事務局会議
非行少年を生まないネットワーク会議
11月 17日(土)4日(月)青年リーダー養成事業
※10日(日)少年の主張全国大会

新賛助会員(25年7月16日～10月30日)

- 特別賛助会員
株式会社 ふくや (福岡市)
久保田浩介 (福岡市)
権現 昭二 (福岡市)
中島 公明 (春日市)
野中 勝美 (飯塚市)
竹井 澄子 (柳川市)
吉田 正宇 (福岡市)
佐藤 光俊 (宗像市)
是枝 高司 (福岡市)
秋山 幸二 (那珂川町)
津上 正幸 (古賀市)
陶山 正徳 (福岡市)
尾座本宜一 (福岡市)
田代 強一 (福岡市)

ありがとう
愛ちゃん と 希望くん
この広報紙は、共同募金の配分を受けて発行しています。

青少年育成 考



「正しい日本語を」
公益社団法人福岡県青少年育成県民会議 理事
半田真弓

酷暑と自然災害が「これでもか、これでもか」と襲ってきた今年の夏。しかし、このような中で決定された「2020年東京五輪」開催のニュースに、一服の清涼剤を見出ししたのは私だけではなからう。
東京五輪決定の一翼を担ったのは最終プレゼンテーションを受け持たれた方々の訴えが委員の心を動かしたと伝えられる。
自分の思いを相手に真剣に伝えた言葉の生きた強さを改めて認識した。私は東日本大震災の被災地の小中学生が、テレビ等のインタビューを受け、常に真剣に自分の言葉を選び、思いをはっきりと伝える姿に涙を流すこともたびたびだ。
人は様々な体験を経て強くなり、自己を確立していくのだろう。
ここ数年の流行語として「私的には」という表現をよく耳にする。マスコミ関係の人々も口にするのに驚く。何故「私は」ではだめであろうか。自分の発した言葉に責任を回避しているようで、どうしても馴染めない。
公共の乗り物の中でも、若者は常にスマホを手放さない。相手と顔をつき合わせ、表情の一つ一つから心のひだを読み取る会話を心がけてほしい。たとえ、そこで自分が傷ついても恐れないてほしい。
青少年育成県民会議の家庭部会でも「三つ子の魂百まで」といわれるように、日本語の正しい会話の在り方をまず、大人が再確認して、幼児に接していく研修会も必要ではないだろうか。

編集後記
「若いなかま」は年に3回、7月・11月・3月に発行しています。毎年、11月に発行する内容は青少年育成県民会議の主要行事である「野外学習・囲碁大会・少年の主張大会」です。夏休みに集中するため広報委員の取材も多忙を極めます。記事には事欠かないという利点はありますが、恒例行事をマンネリ化させず、いかに新鮮に、昨年とは違う切り口で伝えていくかが問われます。担当者、レイアウト、ページを替えて変化を持たせるなどの工夫も必要です。中でも、野外学習は4泊5日でニュースソースとしては大容量です。いかに簡潔に臨場感豊かに伝えるか苦労するところです。今回の188号が読者の皆様にそれぞれの行事の趣旨や雰囲気、臨場感を届けることができたら幸いです。
(広報部会長・馬場)

青少年の健全育成のために
賛助会員入会のお願い
次代を担う青少年の健全育成を図るため、県民会議では、少年の主張大会、野外学習、マラソン大会など、様々な活動を行っています。
県民会議の活動に賛同いただく賛助会員の募集を行っています。会費は左のとおりです。電話 (092-643-6001) いただければ、資料をお送りいたします。
賛助会員の年会費
個人 1口 1,000円
法人又は団体 1口 15,000円
特別賛助会員 1口 50,000円
納入いただく方法
会費は、公益社団法人福岡県青少年育成県民会議の次のいずれかの口座に納入していただくか、県民会議事務局に直接ご持参ください。
西日本シティ銀行県庁前出張所 (普通預金) 0163919
福岡銀行県庁内支店 (普通預金) 526475
筑邦銀行福岡支店 (普通預金) 1597091
福岡中央銀行本店 (普通預金) 1030569
県庁内郵便局郵便為替口座 福岡 01700-5-4057